

令和6年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査について

調査対象：5年生

調査事項

ア 実技に関する調査

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

イ 質問紙調査（運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査）

1 結果と分析

- 女子は、長座体前屈を除き、どの項目でも平均もしくはそれ以上の得点である。特に反復横跳び、50m走、ソフトボール投げでは、全国平均を大きく上回っている。質問紙の結果から、運動やスポーツが好きで、運動の時間を持ちたいと思っている児童が多い。
- 男子は、握力、20mシャトルラン、立ち幅跳びなどが全国平均を大きく下回っている。筋力や跳躍能力、持久力に課題がある。質問紙の結果から、運動やスポーツが苦手な児童が全国平均よりも多く、運動の楽しさを味わえるような経験を重ねていくことが今後の課題である。

2 取組についての評価

(1) 体育科の学習指導

①効果があった取組

- ・できるようになったことを自覚できる自己評価や振り返り活動の設定
- ・タブレットを活用して、自分や友達の動きのポイントや技を確かめ、友達と交流し、学び合う活動の設定
- ・全校でドッジビー大会などの運動を主体的に楽しむための取組の設定

②改善を図る点

- ・運動時間を確保するため、子ども達が体を動かす時間を増やすように授業計画を工夫する。

(2) 今後の体力向上に対する取組

- ・みんなで体を動かす楽しさや達成感を味わったり体力向上につなげたりするドッジビー大会の取組を行う。
- ・体育科の授業の導入の時間を活用し、各学年の課題に応じて「体力アップ福岡運動」から抜粋した動きを準備運動として取り入れる。
- ・各学年でスポコン広場のチャレンジランキングに挑戦する。